

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本の確実な定着
- 主体的、継続的な学習態度の育成

鷺敷小学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員  増田 由紀	委員	【校長】川野 雅弘	【教頭】坂田 淳二
		【教務】岸本由加里	【研修】岩佐 美恵子
		【低学年】門田 歩記	
		【中学年】赤澤 毅哉	
		【高学年】河野 恭平	

校長

川野 雅弘

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算問題などの基礎基本の習得に真面目に取り組む児童が多い。 ●基礎的な力の定着において個人差が大きく、理解や定着が不十分であったり、学習してから時間が経つと既習の学習内容が曖昧になったりする児童もいる。また、読書量が全体的に少なく、語彙も少ない。	・漢字の読み書きが正確にでき、文章の中で正しく使えるようにする。 ・計算の仕方を身に付けて、正確に答えを導くことができる。	①授業やぐんぐんタイム、家庭学習等を利用し、個人をつまづきをつかみ、漢字の読み書きや計算問題に繰り返し取り組ませる。 ②授業では、つまづきやすいポイントを確認させ、ミニテストやフラッシュカードを活用して定着を図る。既習の学習内容については、適宜反復学習や振り返りの機会を設け、継続的に課題に取り組ませる。 ③体験活動や具体物を工夫して効果的に取り入れる。			

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学年によって差はあるが、ペアやグループでの話し合い活動を好む児童が多い。 ●自分の考えをもつことができても、根拠や理由を明らかにして、説明したり、書いたりする活動が苦手な児童もいる。	・自分の思いや考えをもち、根拠や理由を明らかにしながら、自分なりの方法で表現(書く・話す)しようとするができる。 ・語彙を増やし、自分の思いや考えをより正しく伝えることができる。	①文章表現力を高めるために、書く機会を多く設定するとともに、実態に応じたためあてをもたせる。 ②タブレットやホワイトボードを活用し、図や表、言葉等で説明する機会(アウトプットする学習の場)を意図的に設ける。 ③ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、友達の意見を聞いて学び合う姿勢を大切にする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に真面目に取り組む、家庭での学習習慣も定着している児童が多い。工夫して自主学習に取り組むことができる児童もいる。 ●与えられた課題には取り組むが、自ら課題を見つけて取り組む児童は少ない。また、課題に根気強く取り組むことが苦手な児童もいる。話し合い活動では、友達の意見や考えを鵜呑みにし、反対意見を言えない児童が多い。	・課題や自主学習に対して、主体的に取り組む、最後まで根気強く取り組むことができる。	①児童の主体的な活動や体験を授業に多く取り入れる。 ②各教科で「めあて」と「ふり返り」の時間を設定する。 ③家庭学習の内容を工夫して、主体的に取り組めるよう、教科書の活用方法を提示したり、児童の自主学習の取組を学級で紹介したりして意欲を高める。 ④自主学習ノートの作り方を教える等、学び方を教える。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

